

病害虫発生予察情報予報第 12 号 (3 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}		3 月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
			平年比	前年比		
タマネギ	べと病	早生マルチ	並	多	260~263	 タマネギ べと病 一次感染株
		中晩生	やや多	多		
	ポトリチス葉枯症		やや多	多	264	
	白色疫病		並	並	265~266	
	ネギアザミウマ		多	多	271~272	
1. べと病 (1) これからが分生胞子の空気飛散による感染時期となる。本病のまん延を防ぐため、「伝染源となる一次感染株の速やかな抜取り」に加え、「定期的な薬剤防除」を確実に実施する。 (2) 早生では3月上旬~4月上旬、中晩生では3月下旬~4月下旬が主要感染時期であり、この期間はジマンダイセン水和剤を核に、散布間隔を7日として、防除をより徹底する。暖冬の影響で、これより早い時期から軽微な感染が起こる場合があるので、地域の防除暦に従って、2月下旬から、10日間隔の切れ目ない薬剤防除を行う（令和2年2月12日付け病害虫対策資料第14号参照）。						
2. ネギアザミウマ 発生を認めた圃場では、低密度時から薬剤防除を行う。本虫は薬液のかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、薬剤はそれらの部位にもかかるよう、生育に応じた十分量を丁寧に散布する。						
施設果菜類	1. 虫害全般（アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類） 気温が高くなるに従い、施設内の害虫の増殖が盛んになるとともに、施設内への飛び込みが増加する。多発生を防ぐため、低密度時からの薬剤防除を行う。					
	2. 病害全般（灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病） 向こう1か月は気温が高いと予想され、加温機の稼働頻度が低下し、結露が生じやすいと考えられる。こまめな換気や早朝加温によって結露を防ぐとともに、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を行う。					
イチゴ（本圃）	ハダニ類		多	多	209~210	 ハダニ類
	うどんこ病		やや少	やや多	199~201	
	灰色かび病		多	やや多	202~203	
	アブラムシ類		多	多	214~215	
1. ハダニ類 現時点では低密度の発生であるものの、今後、ハダニが増殖し、被害を及ぼす危険性が高い圃場が散見されている。春期にはハダニ類がさらに増殖しやすく防除が難しくなるため、発生圃場では直ちに 5~7 日間隔で薬剤散布を実施し、低密度時からの防除を徹底する。（令和 2 年 1 月 29 日付け病害虫発生予察注意報第 4 号参照）。						
2. 親株の立枯性病害 健全苗を育成するため、専用増殖施設で育成された株や立枯性病害の発生が無い圃場から採苗した株を親株とする。炭疽病については、ランナー伸長初期から定期的な薬剤防除を実施するとともに、雨よけが可能な施設では雨よけを行う。						

作物名	病虫害名 ^{注1)}	3月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キュウリ	べと病	やや多	並	179~180	 キュウリ 黄化えそ病
	うどんこ病	やや少	少	177~179	
	褐斑病	並	並	182~183	
	アザミウマ類	並	やや多	191~192	
	コナジラミ類	並	並	190~191	
1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 媒介虫の薬剤防除を徹底するとともに、ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分する。					
トマト	葉かび病	やや多	やや少	226~227	 トマト 灰色かび病
	灰色かび病	並	多	221~222	
	コナジラミ類	やや多	並	152~154 229~231	
1. タバココナジラミ：黄化葉巻病 ウイルス病罹病株の発生を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、タバココナジラミの防除を徹底する。また、野外からの飛び込み防止にも努める。					
ナス	すすかび病	並	並	235~236	 灰色かび病
	灰色かび病	やや多	やや多	234~235	
	菌核病	多	多	238	
	アザミウマ類	並	並	155~160 242~243	
	コナジラミ類	やや多	やや多	152~154 243~244	
カンキツ	かいよう病	並	やや多	224~226	 ミカンハダニ
	ミカンハダニ	やや多	並	245~247	
1. かいよう病 昨年10月および今回の調査において、一部圃場で発生を確認している。今後の多発生を防ぐため、罹病葉、罹病枝は必ず除去するとともに、 <u>3月上旬までに必ず銅剤を散布する。</u>					
2. ミカンハダニ 一部圃場で発生が確認されている。マシン油乳剤の散布が未実施の場合は、発芽前までにマシン油乳剤を散布する。					
ナシ	1. 黒星病 落葉は主要な伝染源となるので、園内から除去し適切に処分するとともに、発芽直前及び発芽初期の防除を徹底する。				
キウイフルーツ	1. かいよう病 本病の特徴として、枝や幹から乳白色あるいは赤褐色の樹液(かいよう病菌を含む樹液)が漏出する症状がみられる(右写真参照)。これらの早期発見に努め、発見した場合は直ちに切除する。また、すべての園において、6月まで感染防止のため銅水和剤を主体とした定期的な薬剤防除を徹底する。				 かいよう病菌を含んだ樹液の漏出

作物名	病虫害名 ^{注1)}	3月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	やや多	多	418~419	
	<p>1. カンザワハダニ 発生葉は少ないものの多くの圃場で発生がみられる。多発後の薬剤散布では、防除効果が不十分となるため、萌芽前までの防除を徹底する。</p> <p>2. チャトゲコナジラミ 発生圃場：越冬幼虫の密度を低く抑えるため、萌芽前までにマシン油乳剤による防除を行う。 改植圃場：改植する場合は、定植する苗木に本虫の寄生がないか確認する。本虫が寄生していた場合は枝葉を落として定植し、定植直後にマシン油乳剤を散布する。除去した枝葉は土中に埋設するなど適切に処分する。</p> <p>3. 赤焼病 一部圃場で発生がみられる。被害拡大防止のため、発生を認めた場合は直ちに銅剤の散布を行う。</p>				
キウ	白さび病	やや多	やや多	383~384	 <p>白さび病</p>
	アザミウマ類	並	少	388~389	
	アブラムシ類	並	並	390~391	
	ハダニ類	並	並	389~390	
	ハモグリバエ類	並	並	392~393	
	<p>1. 白さび病 一部圃場で発生を確認している。多発生を防ぐため、換気を行うなど施設内の湿度低下を図るとともに、罹病葉は除去処分し、定期的な薬剤散布を実施する。</p>				

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～3 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
5 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

3 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 3 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 2 年 2 月 20 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年よりやや少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 3 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	10 (9.9℃)	80	高
降水量	40	40 (129 mm)	20	やや少

Ⅲ. 3月の予報

タマネギ

定期調査 20 圃場
調査日：2月17、19日



定期調査圃場の様子

1. べと病（早生マルチ）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.09%（平年0.1%、前年0.01%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量はやや少なく、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

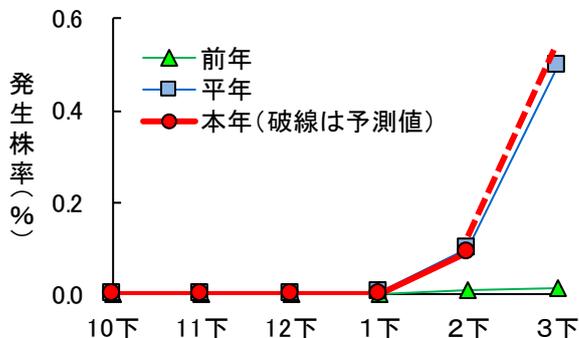


図1 早生タマネギでのべと病の発生推移

2. べと病（中晩生無マルチ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.1%（平年0.04%、前年0.1%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量はやや少なく、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



定期調査圃場の様子

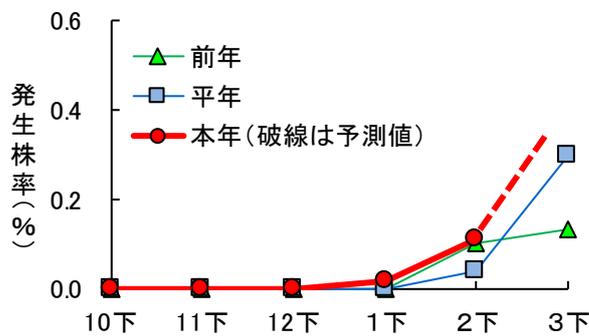


図1 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

3. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：5.8%（平年2.5%、前年0%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量はやや少なく、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生を認めた場合には、速やかに薬剤防除を実施する。

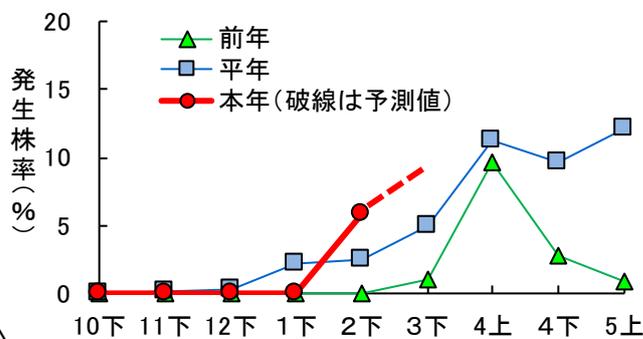


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

4. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：7.1%（平年1.8%、前年0.8%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

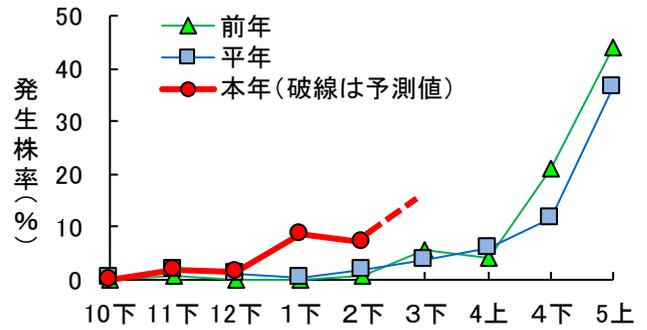


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移



定期調査圃場の様子

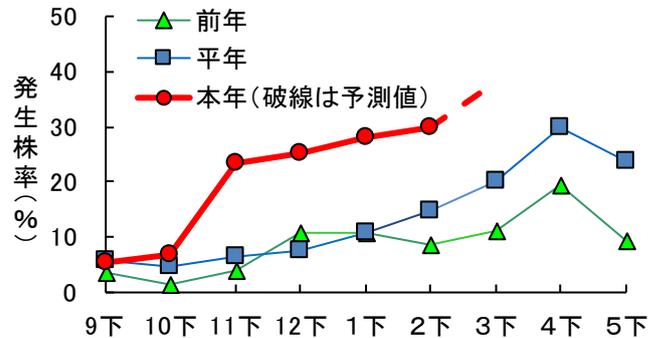


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

イチゴ（本圃）

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場

調査日：2月17～20日

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：29.8%（平年14.5%、前年8.5%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

(2) その他については、特記事項を参照する。

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.4%（平年0.1%、前年0.8%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：少（-）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量はやや少なく、やや多発生の条件（±～+）

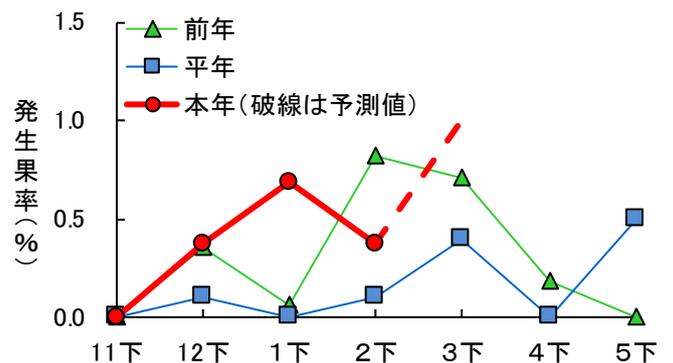


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 「いちごさん」では受粉後の花卉が外れにくいいため、果実での被害が発生しやすい。ブローアー等を用い定期的に花卉を除去する。

(2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

3. アブラムシ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：4.3%（平年0.4%、前年1.6%）
平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P531～535）。
 - (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

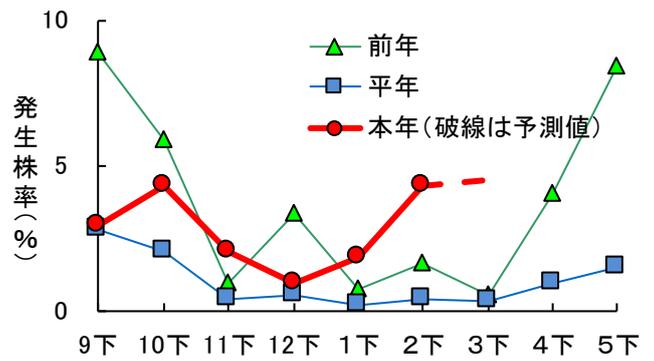


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移



定期調査圃場の様子

キュウリ（抑制）

定期調査4圃場、防除員3圃場
調査日：2月17～18日

1. べと病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：2.9%（平年1.8%、前年5.0%）
平年比：並〈±〉 前年比：やや少〈-〜±〉
 - (2) 3月の気象予報
気温が高く、降水量はやや少なく、やや多発生の条件〈±〜+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

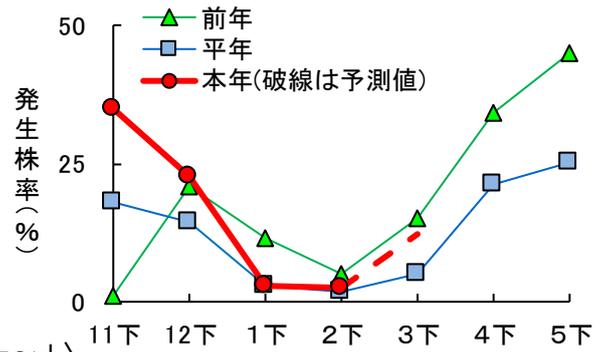


図1 キュウリべと病の発生推移

2. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：3.3%（平年3.4%、前年0%）
平年比：並〈±〉 前年比：やや多〈±〜+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

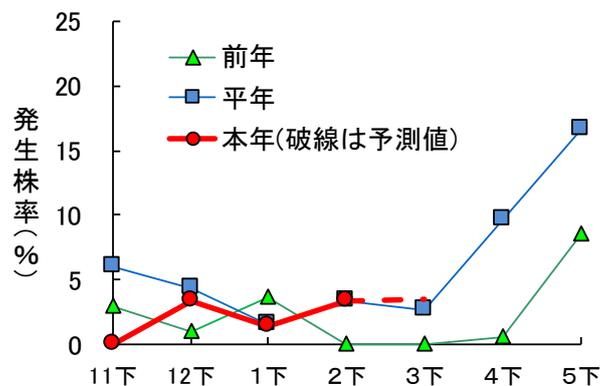


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

トマト

定期調査：6圃場、防除員4圃場
調査日：2月12～18日



定期調査圃場の様子

1. 葉かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：8.5%（平年4.2%、前年15.4%）
平年比：やや多（±～+） 前年比：少（-）
 - ② 3月の気象予報
気温が高く、降水量がやや少なく、やや多発生の条件（±～+）
 - (2) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項（施設果菜類の項）参照

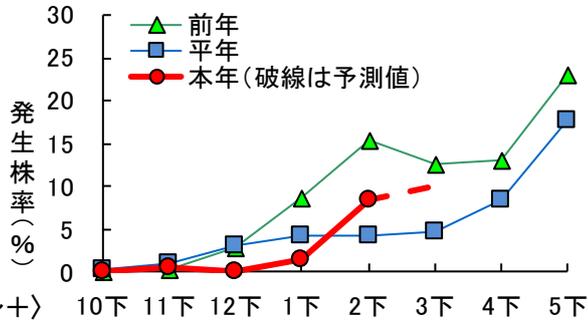


図1 トマト葉かび病の発生推移

2. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：1.0%（平年6.0%、前年2.9%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
 - ② 3月の気象予報
気温が高く、降水量がやや少なく、やや多発生の条件（±～+）
 - (2) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項（施設果菜類の項）参照

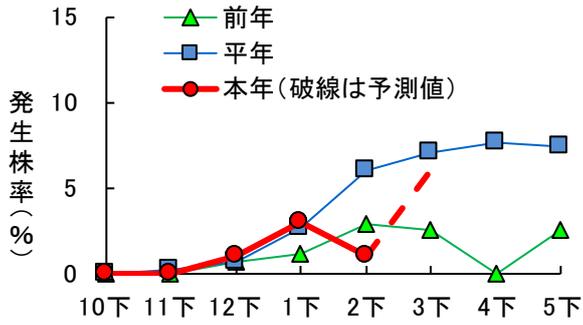


図1 トマト灰色かび病の発生推移

3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：3.0%（平年1.6%、前年4.6%）
平年比：やや多（±～+） 前年比：やや少（-～±）
 - (2) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

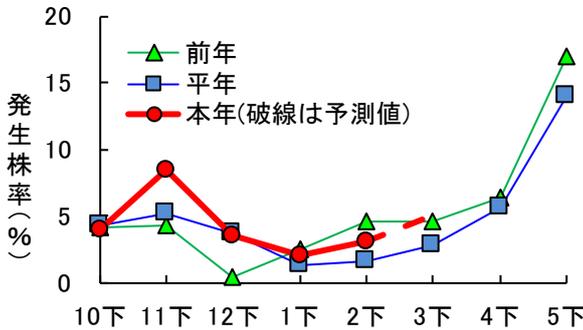


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

ナス（促成）

定期調査6圃場、防除員2圃場
調査日：2月18～22日



定期調査圃場の様子

1. すすかび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：8.1%（平年14.1%、前年9.2%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、やや多発生の条件（±～+）

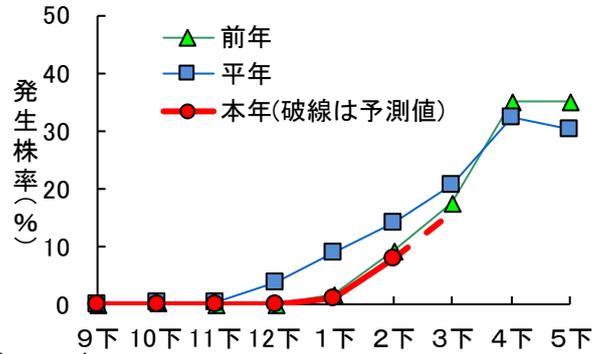


図1 ナスすすかび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 初発生を確認後、本病の発生を低く抑えるために、直ちにダコニール1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施する。

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.5%（平年0.9%、前年0.5%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、やや多発生の条件（±～+）

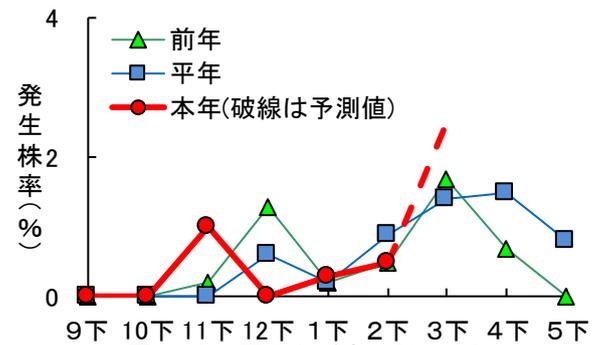


図1 ナス灰色かび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果実に残った花弁はできるだけ取り除き、過湿にならないようこまめに換気を行う。
- (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

3. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.5%（平年0.1%、前年0.5%）

平年比：多（+） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや少なく、やや多発生の条件（±～+）

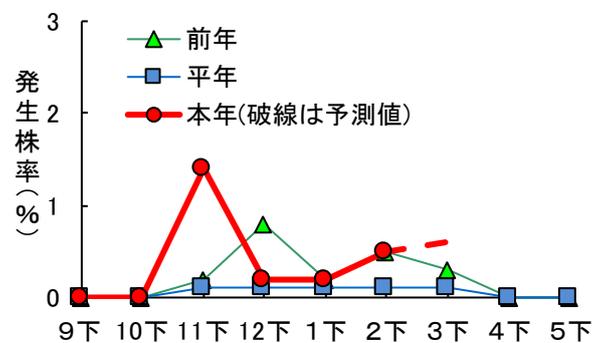


図1 ナス菌核病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 灰色かび病の項と同じ。

4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：2.5%（平年5.5%、前年3.1%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

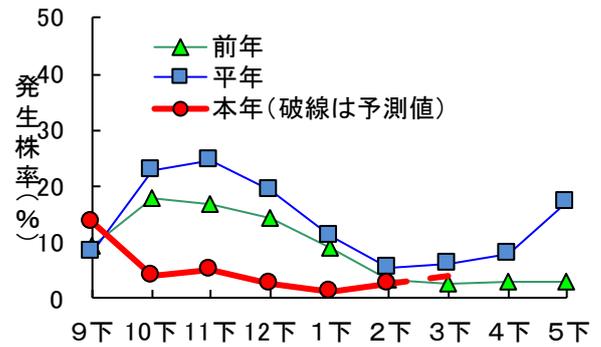


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：15.6%（平年8.3%、前年5.4%）

平年比：やや多<±~+> 前年比：やや多<±~+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) アザミウマ類の項と同じ。

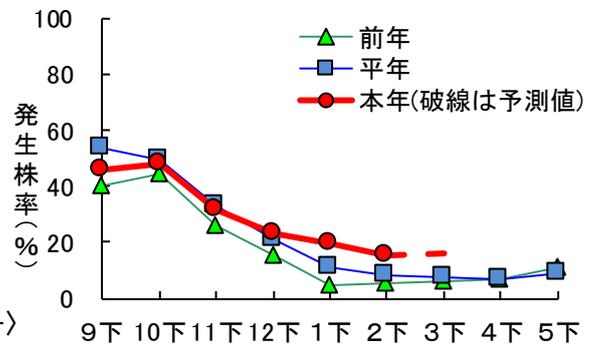


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

カンキツ

定期調査：8圃場

調査日：2月12~19日



定期調査圃場の様子

1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：0.0%（平年0%、前年0%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

- (2) 昨年10月および今回の調査において一部圃場で発生を確認しており、園内の菌密度が高まっていると推察される。<±~+>

(3) 3月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件<一~±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

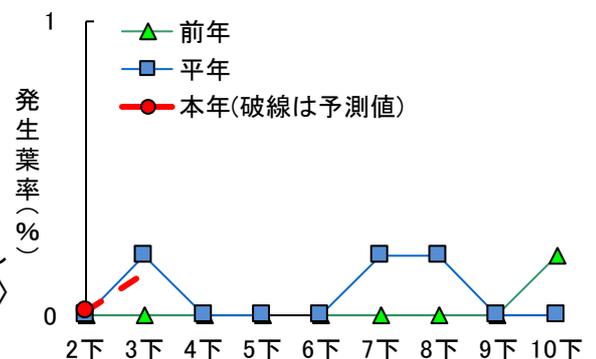


図1 カンキツかいよう病の発生推移

（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

2. ミカンハダニ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生葉率：1.4%（平年2.0%、前年3.9%）
平年比：並（±） 前年比：少（-）
 - (2) 3月の気象予報
気温が高く、降水量がやや少なく、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

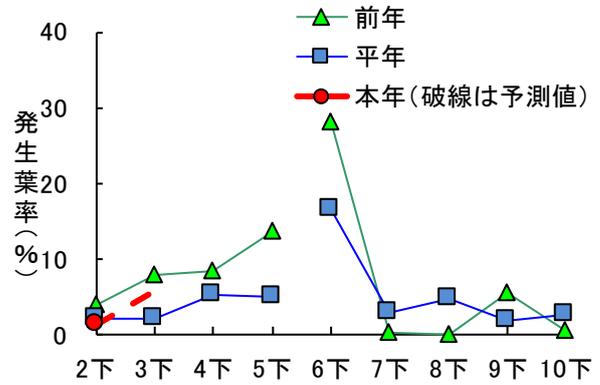


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移
(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)



定期調査：7 圃場
調査日：2月12～14日

1. カンザワハダニ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生葉率：3.4%（平年5.0%、前年0.7%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - (2) 3月の気象予報
気温は高く、降水量はやや少なく、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
 - (2) その他については、特記事項参照。



定期調査圃場の様子

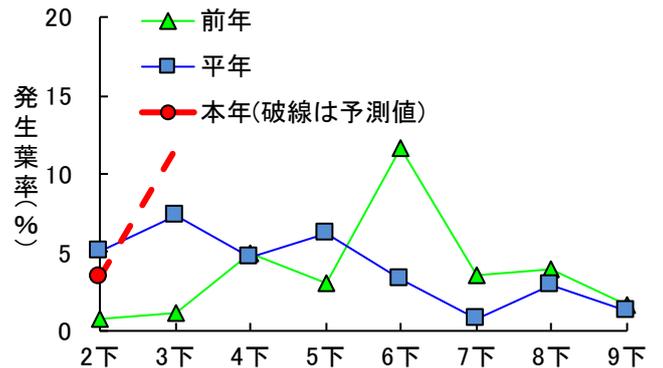


図1 カンザワハダニの茶での発生推移



定期調査圃場の様子



定期調査（8 圃場）
調査日：2月12～19日

1. 白さび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率2.3%（平年3.3%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - (2) 3月の気象予報
気温は高く、降水量はやや少なく、やや多発生の条件（±～+）

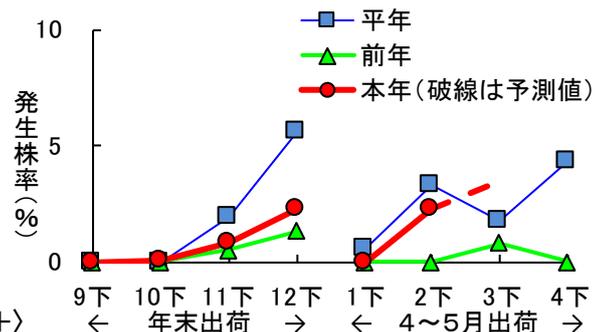


図1 キク白さび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤は、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。
- (2) その他の項については特記事項参照。

2. アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、

ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率0%（平年1.9%、前年9.8%）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：少（-）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は葉裏や生長点付近など薬液のかかりにくい部位に生息しているので、薬剤散布時にはそれらの部位にもかかるよう、十分量を丁寧に散布する。
- (2) ミカンキイロアザミウマが媒介するキクえそ病（TSW）・茎えそ病（CSNV）の発病株は早急に抜き取り、圃場外へ持ち出し適切に処分する。

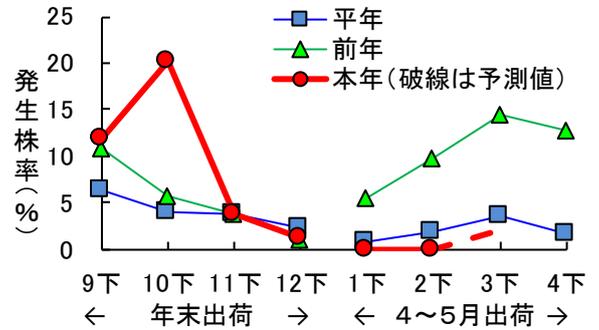


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率0%（平年0.5%、前年1.0%）

平年比：並（±） 前年比：やや少（-〜±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

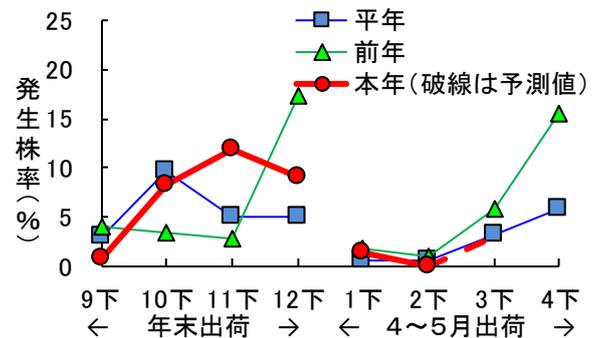


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp